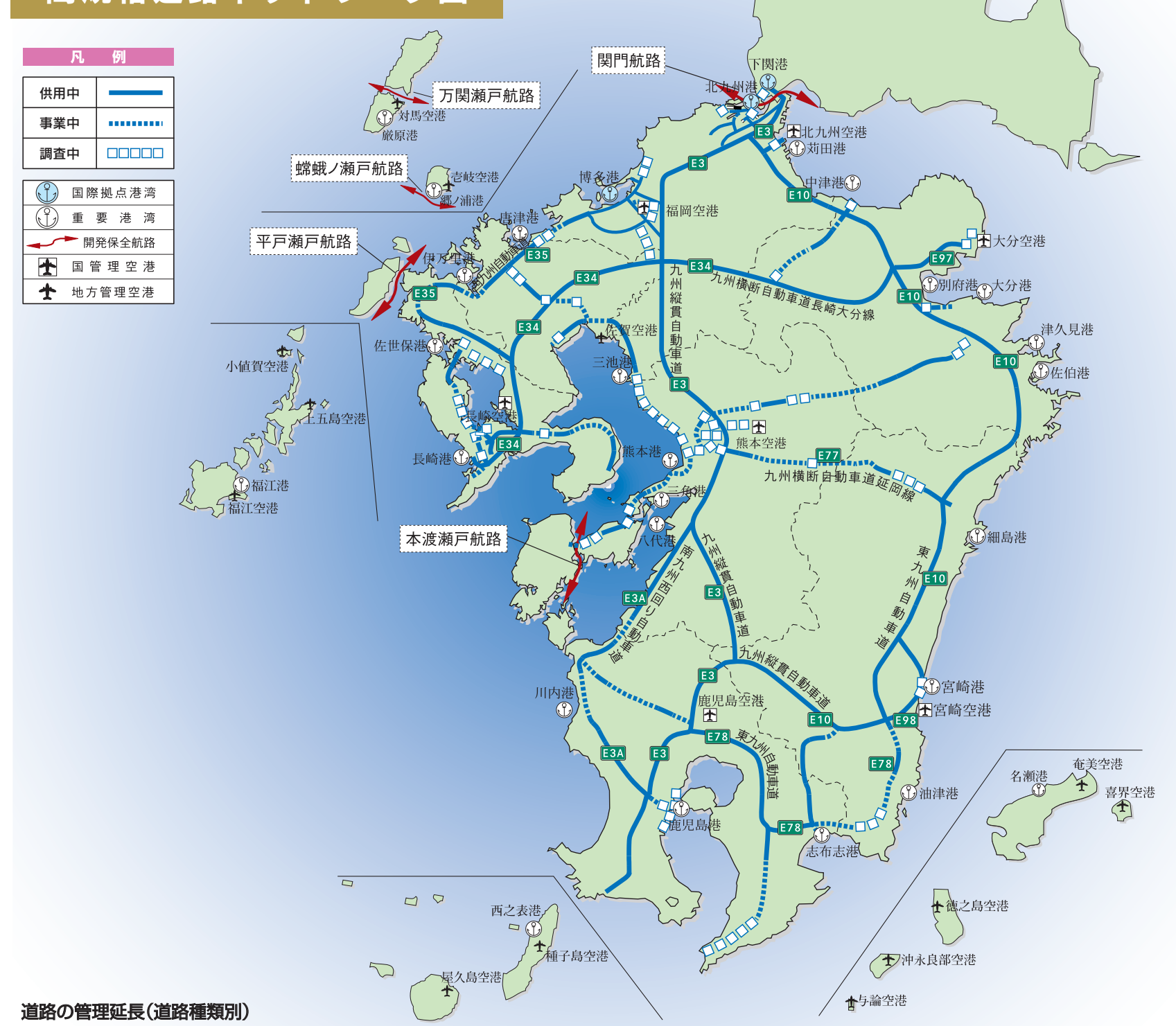
事業概要
2022

国土交通省九州地方整備局

管内関係位置図

■港湾・空港・道路関係位置図

高規格道路ネットワーク図


凡例
供用中
事業中
調査中
国際拠点港湾
重要港湾
開発保全航路
国管理空港
地方管理空港
関門航路
万関瀬戸航路
螺蛾ノ瀬戸航路
平戸瀬戸航路
本渡瀬戸航路
下関港
北九州港
北九州空港
苅田港
福岡空港
博多港
中津港
大分空港
別府港
大分港
津久見港
佐伯港
唐津港
伊万里港
佐世保港
厳原港
郷ノ浦港
壱岐空港
対馬空港
小値賀空港
上五島空港
福江港
福江空港
長崎港
長崎空港
佐賀空港
三池港
熊本港
熊本空港
三角港
八代港
天草空港
細島港
宮崎港
宮崎空港
川内港
鹿児島港
鹿児島空港
油津港
志布志港
名瀬港
奄美空港
喜界空港
西之表港
種子島空港
屋久島空港
徳之島空港
沖永良部空港
与論空港
九州横断自動車道長崎大分線
九州横断自動車道延岡線
九州縦貫自動車道
東九州自動車道
南九州西回り自動車道
E3
E10
E34
E35
E3A
E77
E78
E97
E98

道路の管理延長（道路種類別）

道路区分		全国 実延長(km)	九州 実延長(km)	福岡県 実延長(km)	佐賀県 実延長(km)	長崎県 実延長(km)	熊本県 実延長(km)	大分県 実延長(km)	宮崎県 実延長(km)	鹿児島県 実延長(km)	北九州市 実延長(km)	福岡市 実延長(km)	熊本市 実延長(km)
高速自動車国道		9,050	991	153	78	46	123	191	202	123	49	2	24
国道	指定区間	23,897	2,399	401	239	217	257	350	308	444	40	78	66
	指定区間外	31,928	5,211	524	391	775	892	704	871	856	125	34	37
県道	主要地方道	57,891	7,764	1,404	549	829	1,057	986	972	1,614	153	92	108
	一般県道	71,866	9,730	1,612	717	837	1,586	1,543	1,047	1,924	98	149	216
市町村道		1,032,790	133,398	25,510	9,064	15,373	18,443	14,822	16,811	22,463	3,887	3,621	3,403
合計		1,227,422	159,492	29,605	11,038	18,077	22,358	18,596	20,212	27,424	4,352	3,975	3,854

※延長は、2021年版道路統計年報による
※指定区間外：一般国道のうち、都道府県及び政令市が担当する区間

■河川関係位置図

九州地方における県別所管概要　（延長：km）

県名	一級河川 関係水系数	河川延長 指定区間外	河川延長 指定区間	河川延長 合計
福岡県	3	263.5	1,039.3	1,302.8
佐賀県	3	220.1	856.3	1,076.4
長崎県	1	21.9	114.4	136.3
熊本県	4	297.9	1,436.6	1,734.5
大分県	4	196.5	1,880.3	2,076.8
宮崎県	3	145.0	1,363.5	1,508.5
鹿児島県	2	165.0	713.1	878.1
合計	20水系	1309.9	7,403.5	8,713.4

出典：令和２年度河川管理統計（国土交通省水管理・国土保全局水政課）

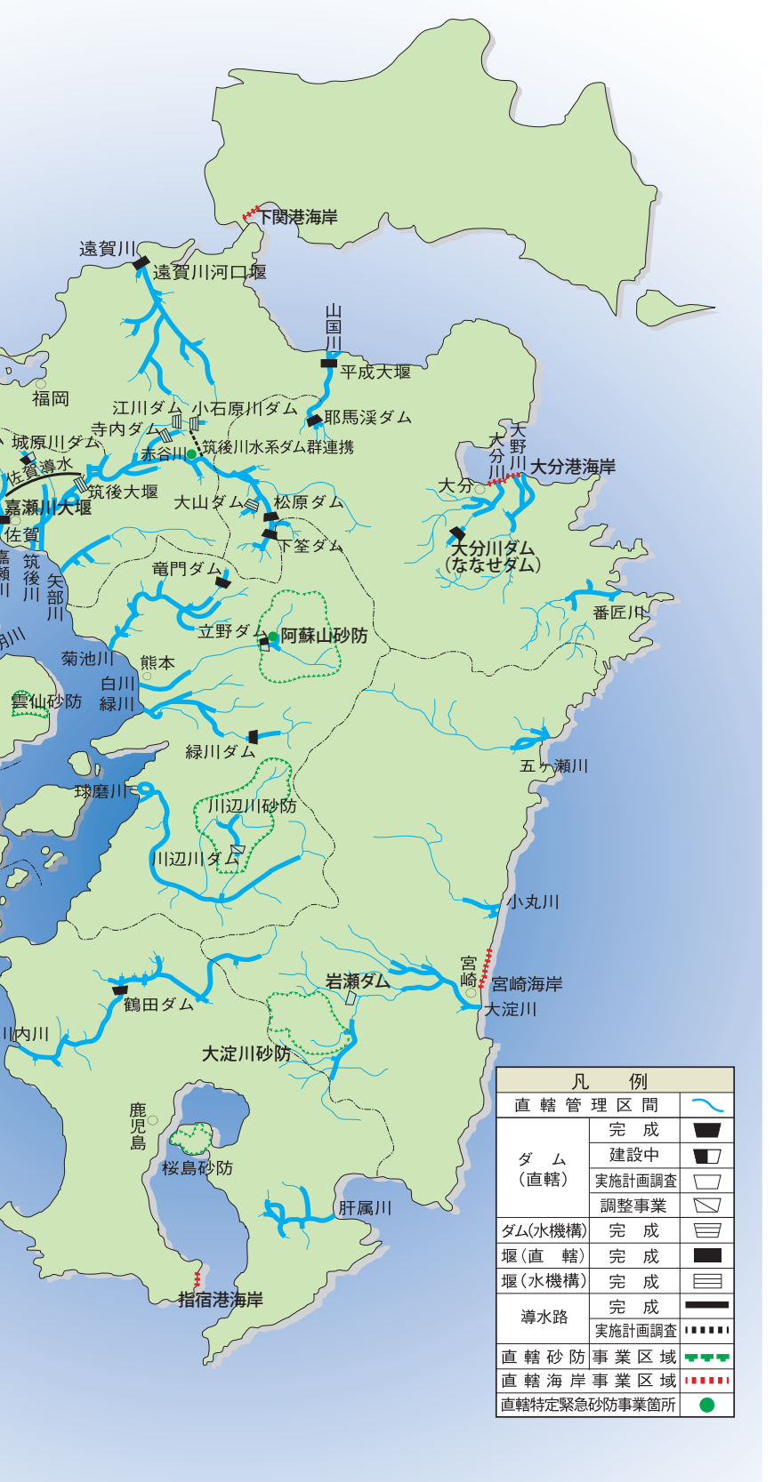
県名	二級河川 水系数	河川数	河川延長(km)	流域面積(km²)
福岡県	52	149	876.0	1,833
佐賀県	60	174	509.3	715
長崎県	210	341	1,026.1	2,225
熊本県	81	148	627.0	1,535
大分県	93	211	988.7	1,902
宮崎県	53	239	1,285.1	3,616
鹿児島県	160	310	1,780.4	4,682
合計	709	1,572	7,092.6	16,508

出典：令和２年度河川管理統計（国土交通省水管理・国土保全局水政課）

県名	砂防指定地 直轄(国)	直轄面積(ha)	補助面積(ha)
福岡県	筑後川(赤谷川)	82.15	4,180.45
佐賀県			1,731.02
長崎県	雲仙	351.42	3,575.09
熊本県	球磨川	853.39	11,695.94
	阿蘇山	74.26	
大分県			9,284.02
宮崎県	大淀川	164.04	5,337.03
鹿児島県	桜島	1,003.37	8,393.12
合計		2,528.63	44,196.67

県名	海岸保全区域（水管理・国土保全局） 全延長(km)	直轄(国)	直轄延長(km)	海岸保全区域（港湾局） 全延長(km)	直轄(国)	直轄延長(km)
山口県				340.48	下関港海岸	12.02
福岡県	73.89			88.47		
佐賀県	15.20			52.13		
長崎県	327.16			381.79		
熊本県	126.86			161.95		
大分県	55.11			115.26	大分港海岸	21.37
宮崎県	29.25	宮崎海岸	6.86	26.53		
鹿児島県	192.28			206.50	指宿港海岸	1.80
合計	819.75		6.86	1,373.11		35.19

出典：砂防指定地：直轄　砂防指定地面積調書（令和4年1月末時点）
　　　　　　　　補助　砂防便覧平成26年度版
　　海岸保全区域：海岸統計令和元年度版
※指定区間外：国が管理する区間
※ 🟨 地方公共団体が管理する区間


下関港海岸
遠賀川
遠賀川河口堰
山国川
平成大堰
耶馬渓ダム
福岡
江川ダム
小石原川ダム
寺内ダム
赤谷川
筑後川水系ダム群連携
筑後大堰
松浦川
松浦大堰
嘉瀬川ダム
城原川ダム
佐賀導水
厳木ダム
嘉瀬川大堰
佐賀
六角川河口堰
六角川
嘉瀬川
筑後川
矢部川
大山ダム
松原ダム
下筌ダム
本明川ダム
本明川
長崎
雲仙砂防
菊池川
熊本
白川
緑川
竜門ダム
立野ダム
阿蘇山砂防
大分
大野川
大分川
大分川ダム（ななせダム）
大分港海岸
番匠川
五ヶ瀬川
緑川ダム
球磨川
川辺川砂防
川辺川ダム
小丸川
宮崎
宮崎海岸
大淀川
岩瀬ダム
川内川
鶴田ダム
大淀川砂防
鹿児島
桜島砂防
肝属川
指宿港海岸
凡例
直轄管理区間
ダム（直轄）　完成　建設中　実施計画調査　調整事業
ダム(水機構)　完成
堰（直轄）　完成
堰（水機構）　完成
導水路　完成　実施計画調査
直轄砂防事業区域
直轄海岸事業区域
直轄特定緊急砂防事業箇所

九州地方整備局管内の港湾・空港および開発保全航路一覧　令和4年4月1日現在

種別 県名(市名)	港湾 国際拠点港湾	港湾 重要港湾	港湾 地方港湾	港湾 56条港湾	空港 拠点空港	空港 地方管理空港	空港 その他空港	開発保全航路
下関市	下関							
福岡県	北九州・博多	苅田・三池	5		北九州・福岡			関門航路
佐賀県		唐津・伊万里	7			佐賀		
長崎県		長崎・佐世保・厳原 福江・郷ノ浦	77	22	長崎	壱岐・福江・小値賀 対馬・上五島		平戸瀬戸航路・螺蛾ノ瀬戸航路・万関瀬戸航路
熊本県		八代・熊本・三角	23		熊本		天草	本渡瀬戸航路
大分県		別府・大分・津久見 佐伯・中津	13	2	大分		大分県央	
宮崎県		宮崎・細島・油津	12	1	宮崎			
鹿児島県		鹿児島・志布志 川内・西之表・名瀬	126		鹿児島	種子島・屋久島・奄美 沖永良部・喜界・徳之島 与論		
管内計	3	25	263	25	7	13	2	5

組織のご案内

● 組織図

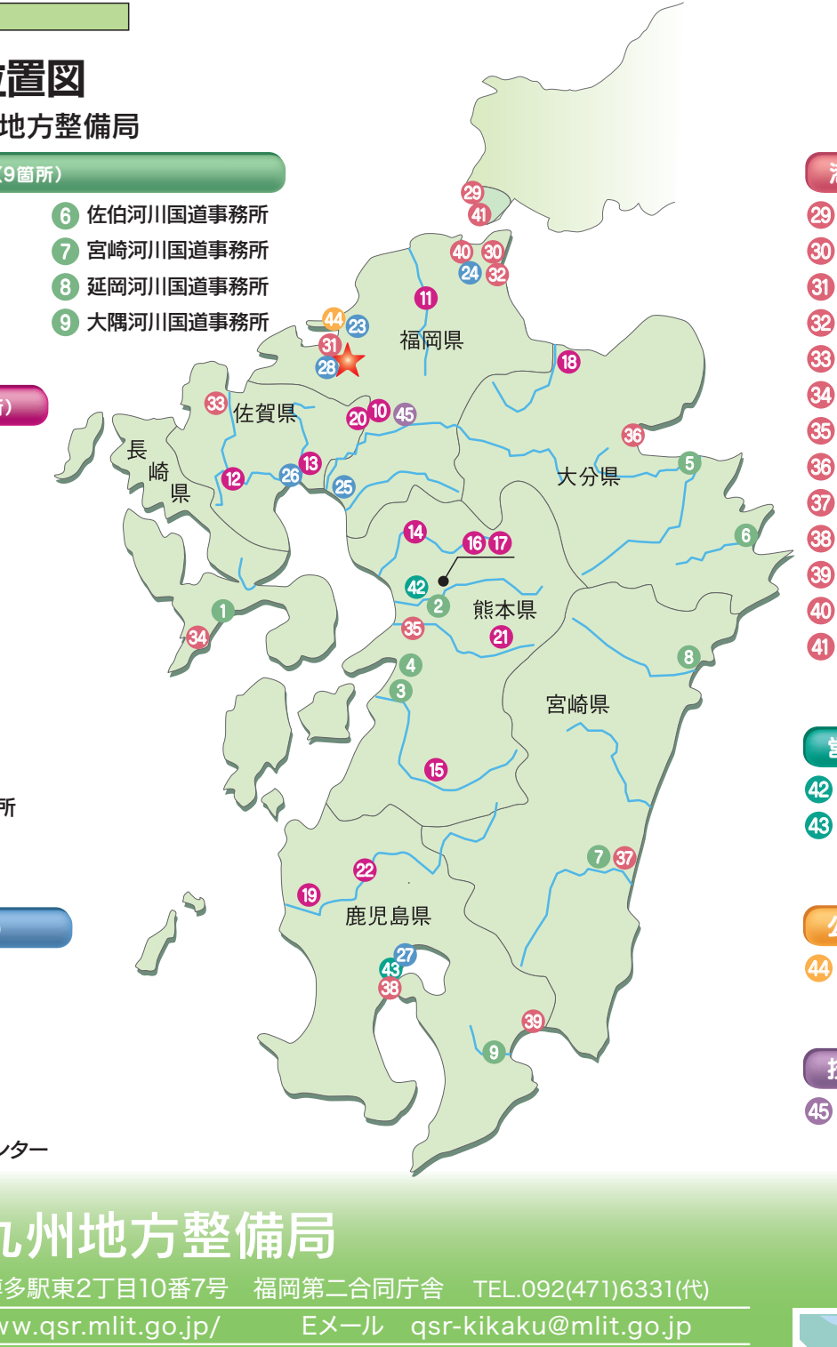
国土交通省
九州地方整備局
- 防災室・災害対策マネジメント室
- 総務部
- 企画部
- 建政部
- 河川部
- 道路部
- 港湾空港部
- 営繕部
- 用地部
- 事務所（45事務所）

● 組織数

本局	
部	8
課・室	50
事務所	45
河川・道路関係事務所	9
河川関係事務所	13
道路関係事務所	6
港湾空港関係事務所	13
営繕関係事務所	2
公園関係事務所	1
技術事務所	1

● 局・事務所位置図

★ 国土交通省 九州地方整備局


福岡県
佐賀県
長崎県
大分県
熊本県
宮崎県
鹿児島県

河川・道路関係事務所（9箇所）
- ① 長崎河川国道事務所
- ② 熊本河川国道事務所
- ③ 八代河川国道事務所
- ④ 八代復興事務所
- ⑤ 大分河川国道事務所
- ⑥ 佐伯河川国道事務所
- ⑦ 宮崎河川国道事務所
- ⑧ 延岡河川国道事務所
- ⑨ 大隅河川国道事務所

河川関係事務所（13箇所）
- ⑩ 筑後川河川事務所
- ⑪ 遠賀川河川事務所
- ⑫ 武雄河川事務所
- ⑬ 佐賀河川事務所
- ⑭ 菊池川河川事務所
- ⑮ 川辺川ダム砂防事務所
- ⑯ 阿蘇砂防事務所
- ⑰ 立野ダム工事事務所
- ⑱ 山国川河川事務所
- ⑲ 川内川河川事務所
- ⑳ 筑後川ダム統合管理事務所
- ㉑ 緑川ダム管理所
- ㉒ 鶴田ダム管理所

道路関係事務所（6箇所）
- ㉓ 福岡国道事務所
- ㉔ 北九州国道事務所
- ㉕ 有明海沿岸国道事務所
- ㉖ 佐賀国道事務所
- ㉗ 鹿児島国道事務所
- ㉘ 九州道路メンテナンスセンター

港湾空港関係事務所（13箇所）
- ㉙ 下関港湾事務所
- ㉚ 北九州港湾・空港整備事務所
- ㉛ 博多港湾・空港整備事務所
- ㉜ 苅田港湾事務所
- ㉝ 唐津港湾事務所
- ㉞ 長崎港湾・空港整備事務所
- ㉟ 熊本港湾・空港整備事務所
- ㊱ 別府港湾・空港整備事務所
- ㊲ 宮崎港湾・空港整備事務所
- ㊳ 鹿児島港湾・空港整備事務所
- ㊴ 志布志港湾事務所
- ㊵ 関門航路事務所
- ㊶ 下関港湾空港技術調査事務所

営繕関係事務所（2箇所）
- ㊷ 熊本営繕事務所
- ㊸ 鹿児島営繕事務所

公園関係事務所（1箇所）
- ㊹ 国営海の中道海浜公園事務所

技術事務所（1箇所）
- ㊺ 九州技術事務所

国土交通省九州地方整備局
〒812-0013　福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号　福岡第二合同庁舎　TEL.092(471)6331(代)
ホームページ　http://www.qsr.mlit.go.jp/　　Eメール　qsr-kikaku@mlit.go.jp
みなさまの声を聞かせてください。九州地方整備局ホームページ「お問い合わせ」で受け付けています。

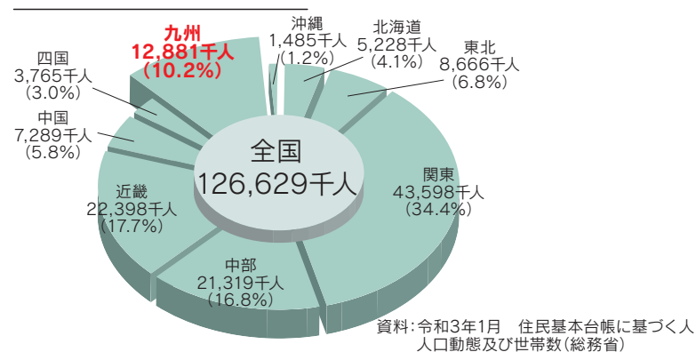
九州地方整備局 Facebook
九州地方整備局 Twitter
九州地方整備局 Twitter 採用情報
九州地方整備局 YouTube
九州地方整備局 Instagram

経済好循環の加速・拡大

■九州地方の現状

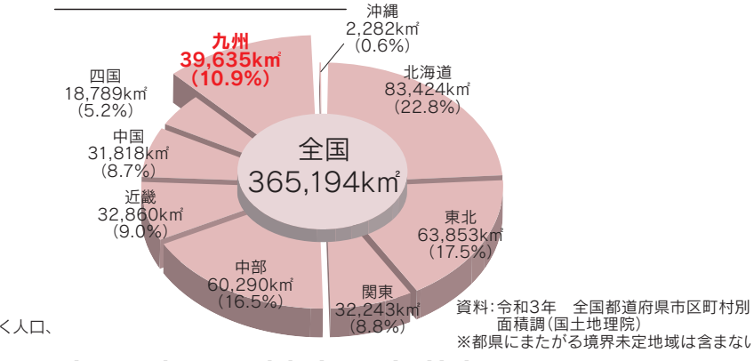
九州地方の人口、面積、域内総生産（GDP）、製造品出荷額は、全国の1割程度です。

九州地方の人口



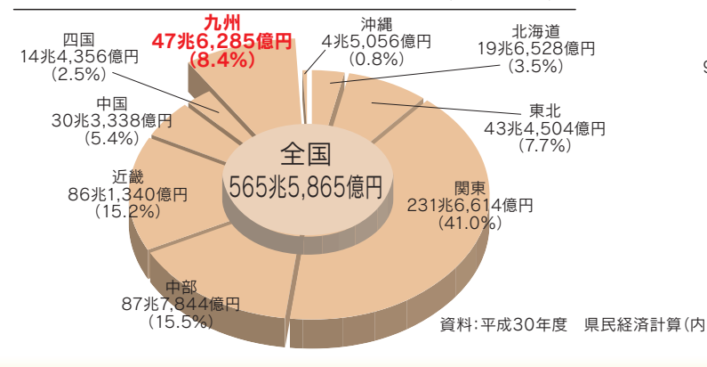
資料：令和3年1月　住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）

九州地方の面積



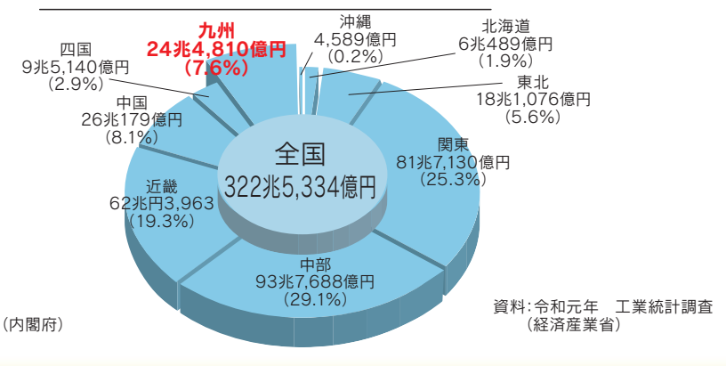
資料：令和3年　全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）
※都県にまたがる境界未定地域は含まない

九州地方の域内総生産（GDP）



資料：平成30年度　県民経済計算（内閣府）

九州地方の製造品出荷額



資料：令和元年　工業統計調査（経済産業省）

■九州の将来像

九州圏広域地方計画　日本の成長センター「ゲートウェイ九州」～新しい風を西から～

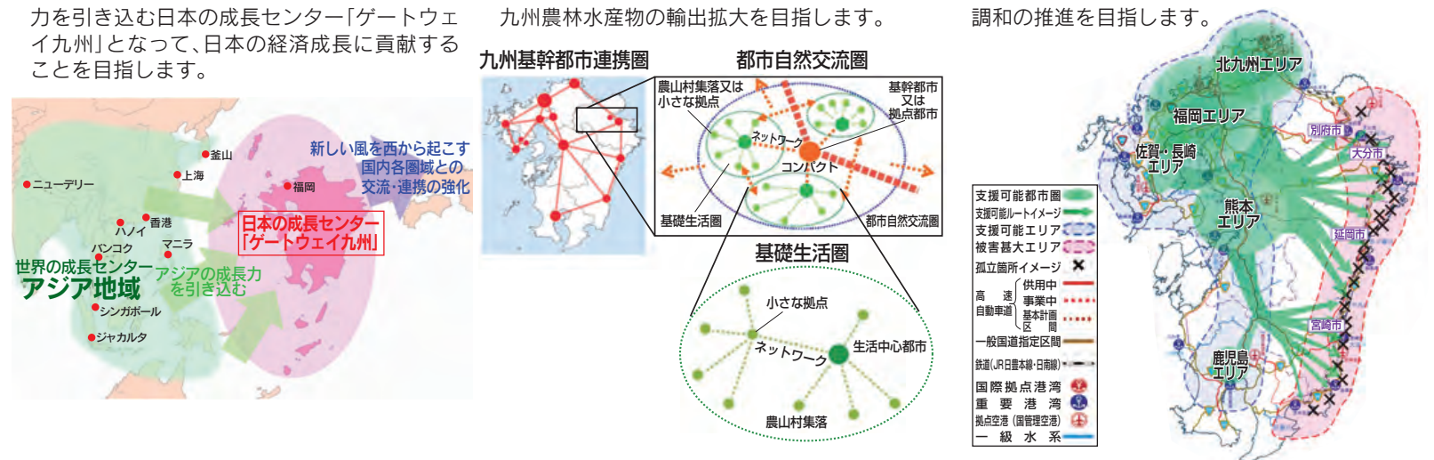
・広域地方計画は、国土形成計画法に基づき平成27年8月に閣議決定された「国土形成計画（全国計画）」を受け、各広域ブロックの自立的発展に向け、21世紀前半期を展望しつつ、今後概ね10年間の地域のグランドデザインをとりまとめたものです。

■九州圏の3つの将来像

1. 日本の成長センター「ゲートウェイ九州」
・世界の成長センターであるアジア地域の成長力を引き込む日本の成長センター「ゲートウェイ九州」となって、日本の経済成長に貢献することを目指します。

2. 三層の重層的な圏域構造から成る「元気な九州圏」
・新技術等による戦略的な産業基盤強化、オール九州農林水産物の輸出拡大を目指します。

3. 巨大災害対策や環境調和を発展の原動力とする「美しく強い九州」
・地域の発展基盤として、巨大災害対策や環境の調和の推進を目指します。


新しい風を西から起こす
国内各圏域との交流・連携の強化
日本の成長センター「ゲートウェイ九州」
世界の成長センター アジア地域
アジアの成長力を引き込む
九州基幹都市連携圏
都市自然交流圏
基礎生活圏
北九州エリア
福岡エリア
佐賀・長崎エリア
熊本エリア
鹿児島エリア

■将来像の実現に向けた戦略（プロジェクト）

・将来像の実現に向けて、重点的に取り組む5つの戦略とそれを支える12のプロジェクトを設定しています。

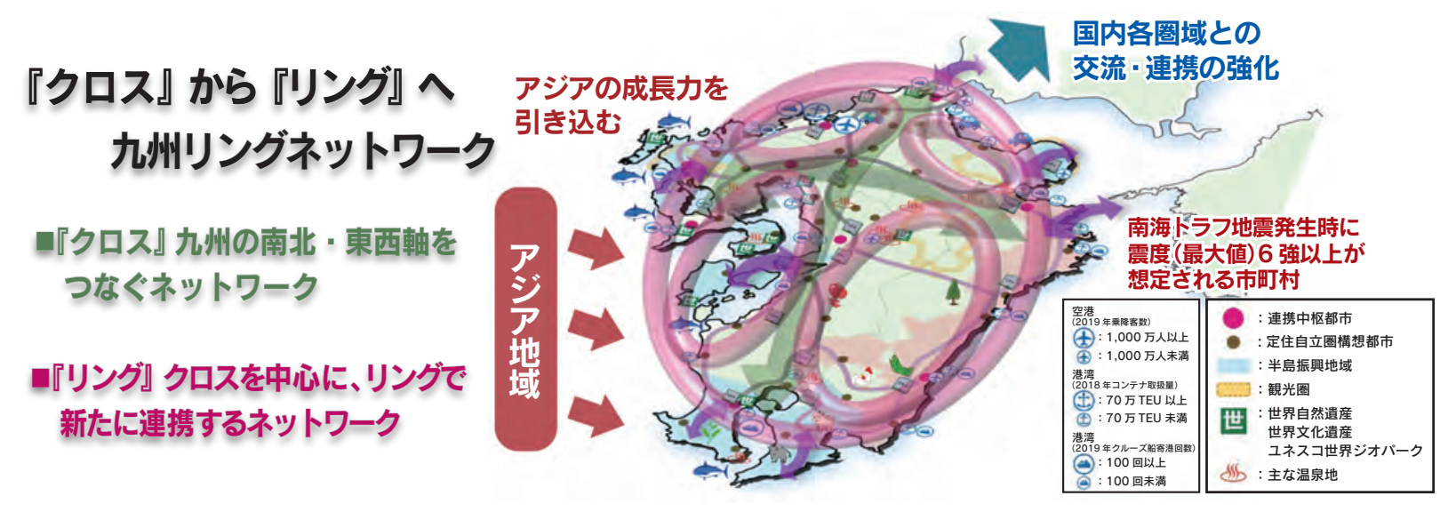
九州圏広域地方計画ホームページ
http://www.qsr.mlit.go.jp/suishin/
九州圏広域地方計画　検索

■社会資本整備の戦略的かつ計画的な推進

○九州の広域道路ネットワークの形成

地域の将来像を踏まえた広域的な道路交通の今後の方向性を定める「新広域道路交通ビジョン・計画」を策定しました。

「クロス」を中心とする骨組みを軸に、いくつもの「リング」を形成してネットワークの密度を高めることにより、九州全域に高速道路サービスをゆきわたらせるとともに、災害に対するネットワークの強靭化を図ります。


『クロス』から『リング』へ
九州リングネットワーク
■『クロス』九州の南北・東西軸をつなぐネットワーク
■『リング』クロスを中心に、リングで新たに連携するネットワーク
アジア地域
アジアの成長力を引き込む
国内各圏域との交流・連携の強化
南海トラフ地震発生時に震度(最大値)6強以上が想定される市町村

○港湾の機能強化・航空ネットワークの充実

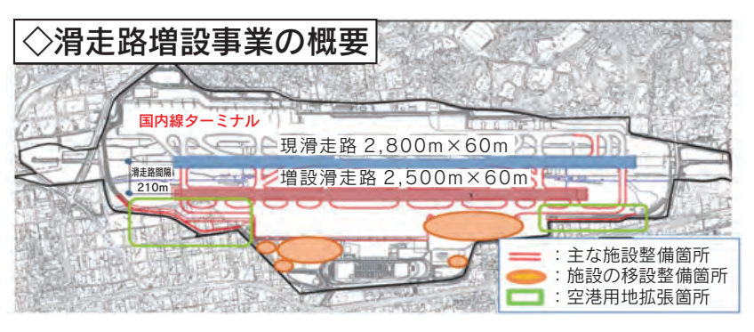
経済成長する東南アジアから貨物を取り込むため、航路網の充実及び輸出入のためのコンテナの積替機能強化を図ります。

新型コロナウィルス感染症収束後の航空需要の回復及び増加を見据え、国際競争力の強化や訪日外国人旅行者の受入に対応した空港の機能強化を計画的に推進します。

航空機の混雑・遅延の解消及び将来の航空需要に対応するため、福岡空港では滑走路の増設事業を推進します。

コンテナ岸壁の延伸事業（博多港アイランドシティ地区）

◇滑走路増設事業の概要


国内線ターミナル
現滑走路 2,800m×60m
増設滑走路 2,500m×60m
210m
：主な施設整備箇所
：施設の移設整備箇所
：空港用地拡張箇所

■カーボンニュートラル等グリーン社会の実現に向けて

○カーボンニュートラルポート（CNP）形成の推進

北九州港響灘東地区において、洋上風力発電の導入を促す基地港湾の整備をすることで「カーボンニュートラルポート（CNP）」の形成を推進します。

基地港湾の整備事業

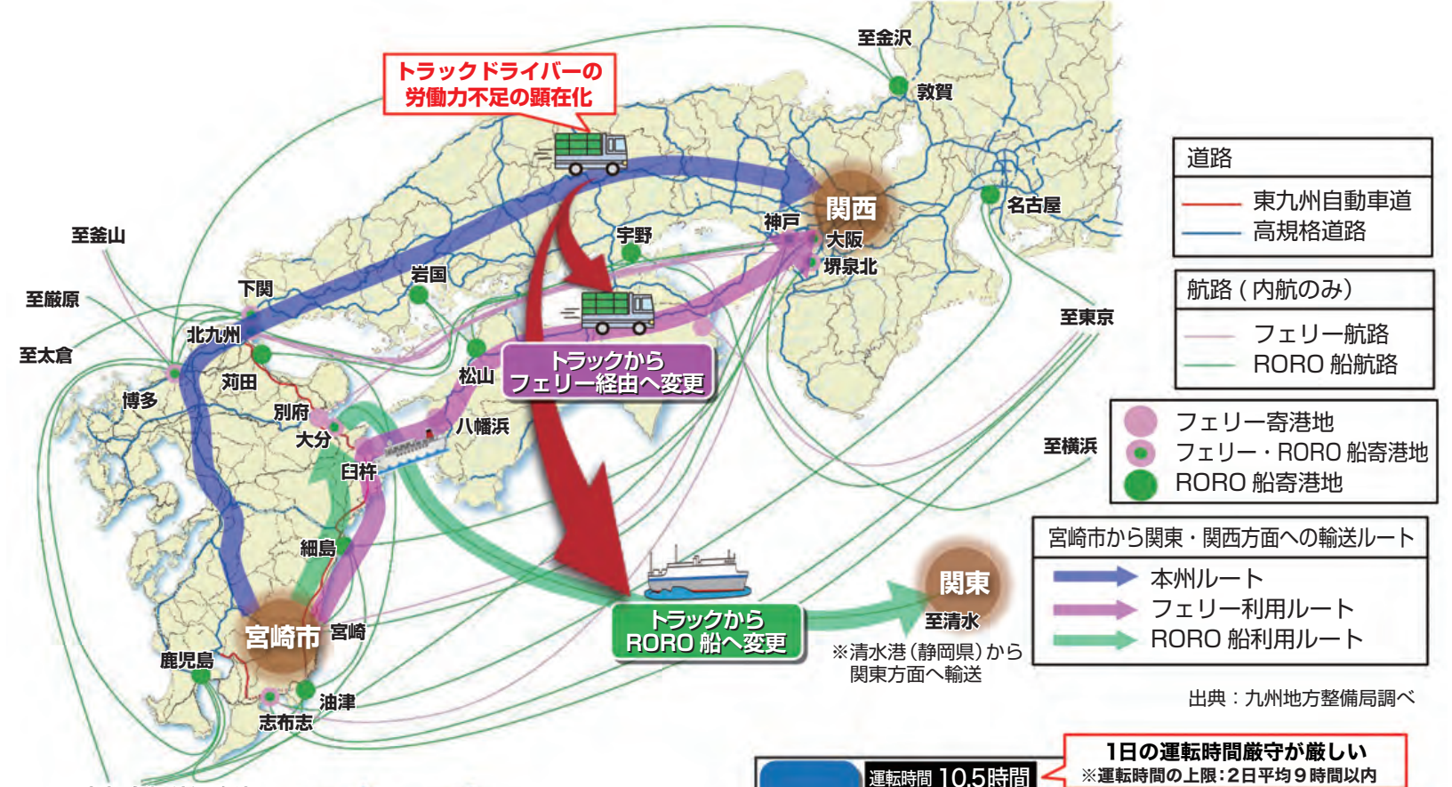
海外港湾の洋上風力発電設備の取扱事例（エスビアウ港（デンマーク））

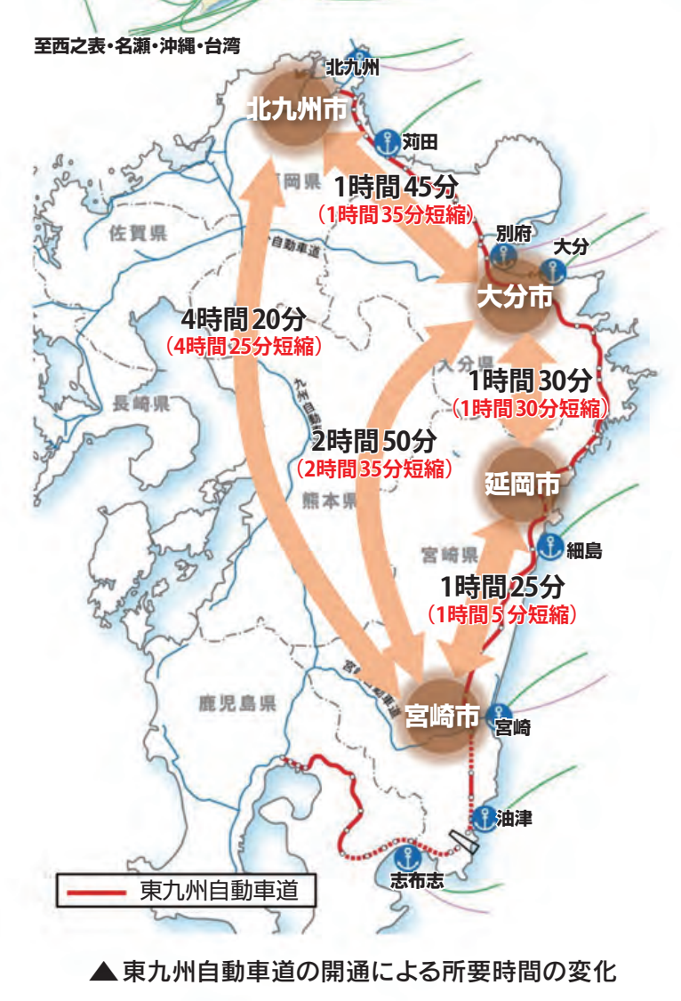
■人流・物流ネットワークの整備効果

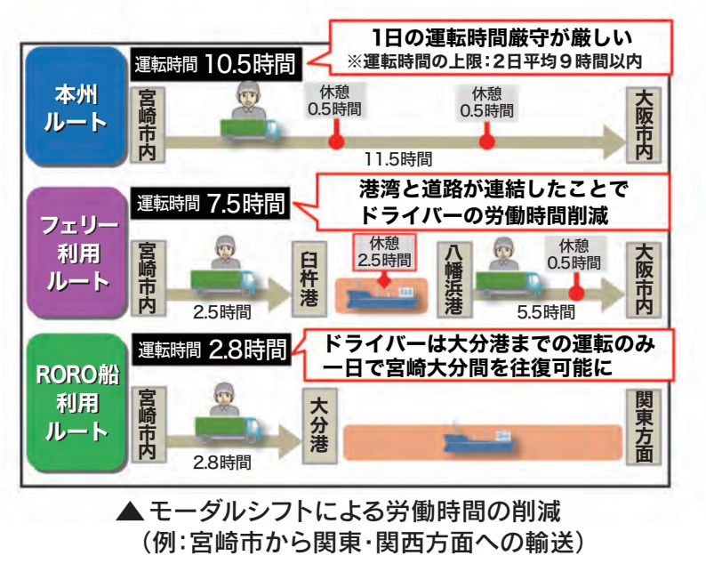
○広域ネットワークによる整備効果

近年、トラックドライバー不足が深刻化し、陸上搬送から海上搬送へのシフトが進み、国内物流を支えるフェリー・RORO船の役割が注目されています。

東九州自動車道（北九州市～宮崎市）が開通後、大分港等を物流拠点としたモーダルシフトが加速し、関東・関西方面へのフェリー・RORO船の利用促進や新たな物流ルートの形成により、ドライバーの働き方改善や都市圏への安定した物流の確保に寄与しています。


トラックドライバーの労働力不足の顕在化
至金沢
敦賀
名古屋
関西
神戸
大阪
堺泉北
宇野
岩国
下関
北九州
苅田
別府
大分
松山
八幡浜
日杵
細島
宮崎市
宮崎
油津
志布志
鹿児島
博多
至釜山
至厳原
至太倉
至東京
至横浜
関東
至清水
トラックからフェリー経由へ変更
トラックからRORO船へ変更
※清水港(静岡県)から関東方面へ輸送
道路
東九州自動車道
高規格道路
航路（内航のみ）
フェリー航路
RORO船航路
フェリー寄港地
フェリー・RORO船寄港地
RORO船寄港地
宮崎市から関東・関西方面への輸送ルート
本州ルート
フェリー利用ルート
RORO船利用ルート
出典：九州地方整備局調べ


至西之表・名瀬・沖縄・台湾
北九州
北九州市
苅田
1時間45分（1時間35分短縮）
別府
大分
大分市
4時間20分（4時間25分短縮）
1時間30分（1時間30分短縮）
2時間50分（2時間35分短縮）
延岡市
細島
1時間25分（1時間35分短縮）
宮崎市
宮崎
油津
志布志
佐賀県
長崎県
熊本県
宮崎県
鹿児島県
東九州自動車道
▲東九州自動車道の開通による所要時間の変化


1日の運転時間厳守が厳しい
※運転時間の上限：2日平均9時間以内
本州ルート　運転時間 10.5時間
休憩 0.5時間
11.5時間
フェリー利用ルート　運転時間 7.5時間
港湾と道路が連結したことでドライバーの労働時間削減
2.5時間
5.5時間
日杵港
八幡浜港
RORO船利用ルート　運転時間 2.8時間
ドライバーは大分港までの運転のみ一日で宮崎大分間を往復可能に
2.8時間
宮崎市内
大阪市内
大分港
関東方面
▲モーダルシフトによる労働時間の削減（例：宮崎市から関東・関西方面への輸送）

新門司自動車物流センター
中古自動車輸出業者
フェリー・RORO船ターミナル【神戸、大阪、東京、徳島方面】
▲フェリー・RORO船ターミナルの整備（北九州港新門司地区）

■働き方改革、インフラ分野のDX、i-Constructionの促進

○建設業の担い手の確保・育成

近年の激甚化する災害やインフラ老朽化等の課題を解決し、地域の安全・安心を確保するためには、「地域の守り手」として最前線で活躍する地元建設業者の存在が必要不可欠です。

中長期的な建設業の「担い手の確保・育成」のため、適正な工期の設定や施工時期の平準化など、自治体と連携し建設業の働き方改革や生産性の向上に取り組んでいます。

私たちの職場は、週休二日制です!
週休2日応援サイト　検索
『週休2日応援サイト』や『Facebookページ』の開設により企業の取組を支援しています。

○インフラ分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

データとデジタル技術を活用し、建設業や職員の働き方を変革することで、安全・安心で豊かな生活を実現するためDXの推進に取り組んでいます。

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）：進化したデジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革すること

九州インフラDx推進室
Kyushu Infrastructure Digital Transformation office

インフラ分野における九州地方整備局DXの様々な取組を紹介しています。

九州インフラDX推進室HP

STV（スカイバーチャルツアー）
UAV（ドローン）で撮影した上空からの360°映像を組み合わせ、上空の様々な視点から現地を確認できます。

SVT画像

山国川・SVT体験

メタバース（仮想世界）を用いた合意形成
VRの仮想世界で整備後の内容をきわめてリアルな3Dモデルを作成し、関係者への事業説明に役立てます。

VRを活用した説明会
HMD（ヘッドマウントディスプレイ）

災害対応のデジタル化
360°映像や三次元（点群）データ等を用いて、安全かつ正確に災害現場を把握し、早期復旧を目指します。

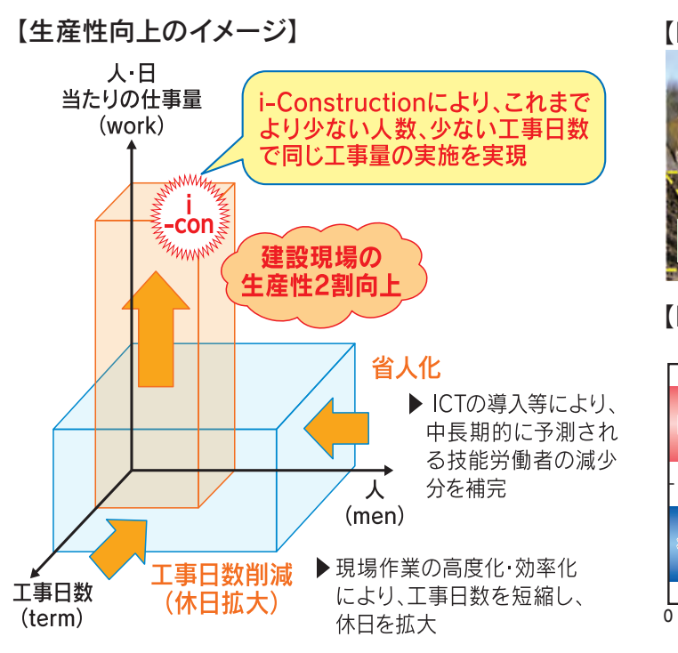
360°映像
三次元（点群）データ

i-Construction

○ i-constructionの推進

今後、懸念される若手労働者の減少による担い手不足などに対応するため、最新のICT（情報通信技術）を活用した3次元モデルを導入し、計画・調査・設計・施工・維持管理の各段階で情報を充実させながら関係者間で共有する「BIM/CIM」を活用することで建設生産システム全体の向上を目指す「i-Construction」を推進しています。

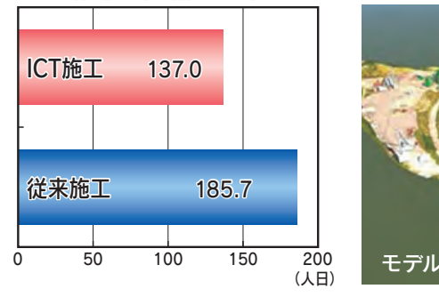
【生産性向上のイメージ】

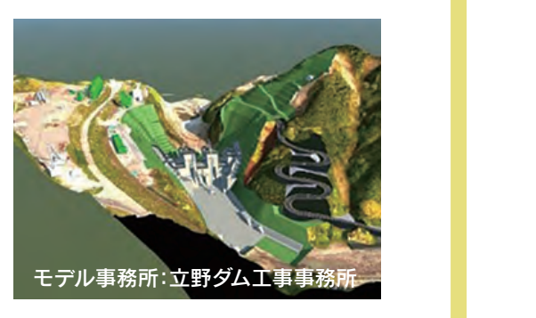

人・日当たりの仕事量 (work)
i-Constructionにより、これまでより少ない人数、少ない工事日数で同じ工事量の実施を実現
i-con
建設現場の生産性2割向上
省人化
▶ ICTの導入等により、中長期的に予測される技能労働者の減少分を補完
人 (men)
工事日数 (term)
工事日数削減（休日拡大）
▶ 現場作業の高度化・効率化により、工事日数を短縮し、休日を拡大

【ICT土工】

丁張り不要
切出位置
設計データ（イメージ）
3次元データを重機に読み込み、確認しながら目印(丁張り)無しで効率的に工事を行います

【ICT土工活用工事の効果】
作業時間縮減効果



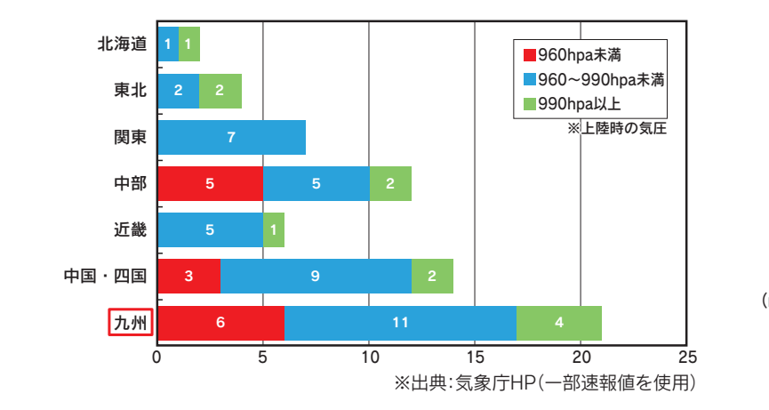

モデル事務所：立野ダム工事事務所

国民の安全・安心の確保

■九州の多様な災害リスク <台風・豪雨・火山噴火>

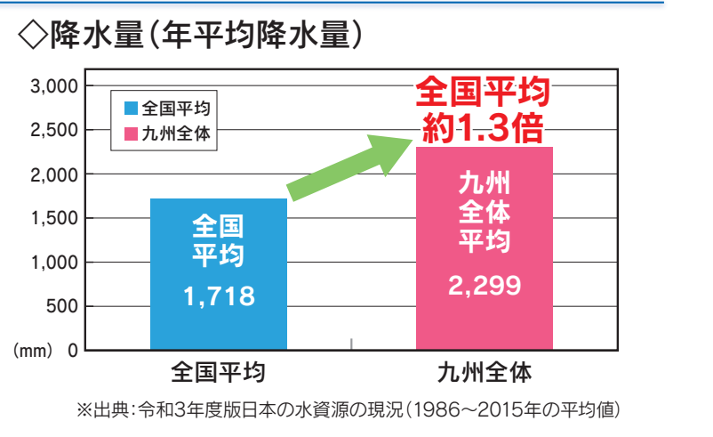
九州地方は、国内の他の地域と比較して、台風の上陸回数が多く、火山活動が活発であるなど災害リスクが高くなっています。

◇地域別台風上陸回数（2001.1～2021.12）



※出典：気象庁HP（一部速報値を使用）

◇降水量（年平均降水量）



※出典：令和3年度版日本の水資源の現況（1986～2015年の平均値）

◇活発な活動が続く活火山

九州地方は、全国で111ある活火山のうち、17の活火山を有しています。また、気象庁が発表している噴火警戒レベルが2以上の活火山を複数有しています。

■活発な火山活動

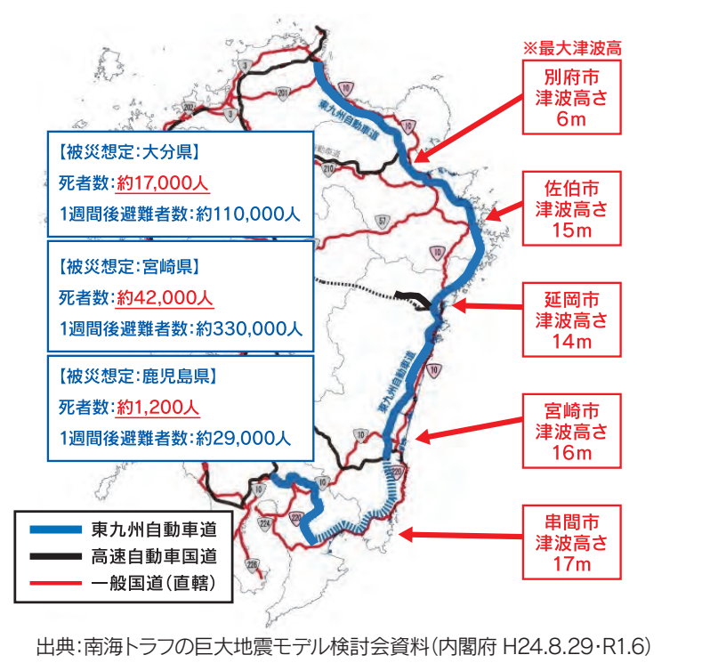
噴火警戒レベル2以上は九州のみ（令和4年1月12日現在）

桜島（さくらじま）	レベル3
諏訪之瀬島（すわのせじま）	レベル3
阿蘇山（あそさん）	レベル2
薩摩硫黄島（さつまいおうとう）	レベル2
口永良部島（くちのえらぶじま）	レベル2

※参考　噴火警戒レベル
　　レベル4（避難準備）
　　レベル3（入山規制）
　　レベル2（火口周辺規制）

出展：気象庁HP

◇南海トラフ巨大地震の津波高と津波浸水域

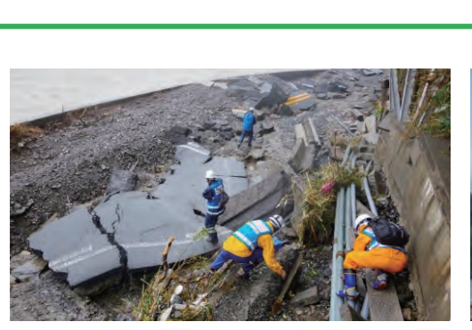

※最大津波高
別府市 津波高さ 6m
佐伯市 津波高さ 15m
延岡市 津波高さ 14m
宮崎市 津波高さ 16m
串間市 津波高さ 17m
【被災想定：大分県】死者数：約17,000人　1週間後避難者数：約110,000人
【被災想定：宮崎県】死者数：約42,000人　1週間後避難者数：約330,000人
【被災想定：鹿児島県】死者数：約1,200人　1週間後避難者数：約29,000人
東九州自動車道
高速自動車国道
一般国道（直轄）
出典：南海トラフの巨大地震モデル検討会資料（内閣府 H24.8.29・R1.6）
注）各県が公表した被害想定・最大津波高さと異なる部分があります。

■ TEC-FORCEの取組み

緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）は、平成20年4月に創設され、大規模自然災害が発生し自治体職員だけでは対応が困難な場合に、いち早く被災地へ出向き、被災自治体を支援しています。

『令和２年７月豪雨』

浸水地域の排水作業


道路被害の調査

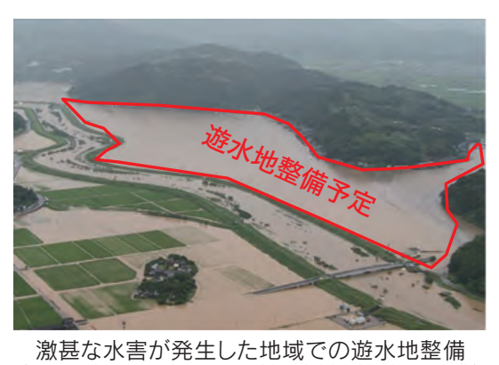
海域での漂流ごみの回収

■防災・減災、国土強靭化の強力な推進

近年の気候変動の影響により激甚化・頻発化する水災害や切迫する地震災害に屈しない強靭な国土づくりに向け、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」を計画的に進めます。

○水害の頻発・激甚化に対応する治水対策の推進

安全・安心を確保し、社会経済の活力を維持・増進していくため、激甚な水害が発生した地域において、集中的に防災・減災対策を実施します。また、想定される被害状況を踏まえ、治水安全度の抜本的な向上を早期に図るため、事前防災対策などの治水対策も重点的に実施します。



激甚な水害が発生した地域での遊水地整備（六角川水系における河川激甚災害対策特別緊急事業）

天大橋
新しい堤防（整備中）
現在の堤防
川内川
流下断面拡大のための堤防（引堤）を整備（川内川河川改修事業）

治水ダムの建設（立野ダム建設事業）

○あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の推進

堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域（雨水が河川に流入するエリア）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定されるエリア）にわたる国・県・市町村・企業・住民といった流域のあらゆる関係者により、水災害対策を行います。

○総合的な土砂・火山災害対策の推進

集中豪雨や火山噴火による土砂災害に対して、事前防災を重視し、ハード・ソフトが一体となった総合的な対策を推進します。

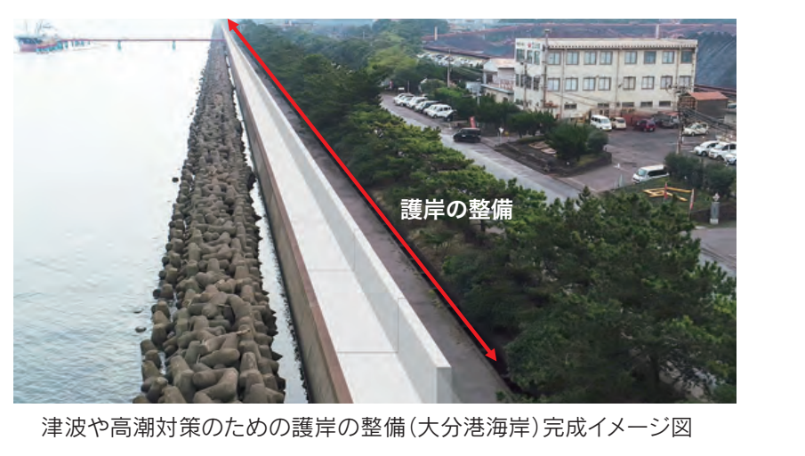
阿蘇山直轄砂防事業

筑後川水系赤谷川特定緊急砂防事業

雲仙直轄砂防管理

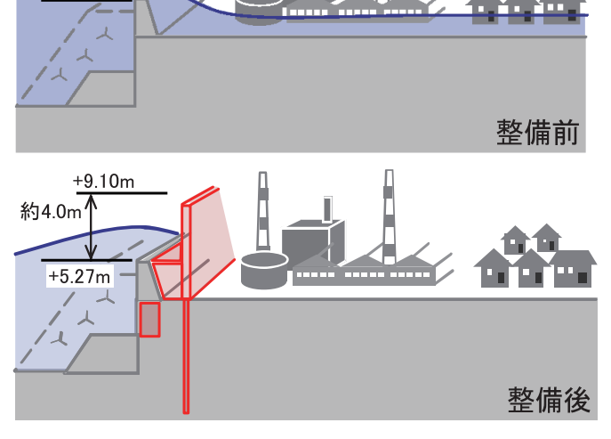
○津波・高潮対策等の推進

津波及び高潮・高波による背後地の浸水被害を防止・軽減するため、海岸保全施設の整備を推進します。



津波や高潮対策のための護岸の整備（大分港海岸）完成イメージ図

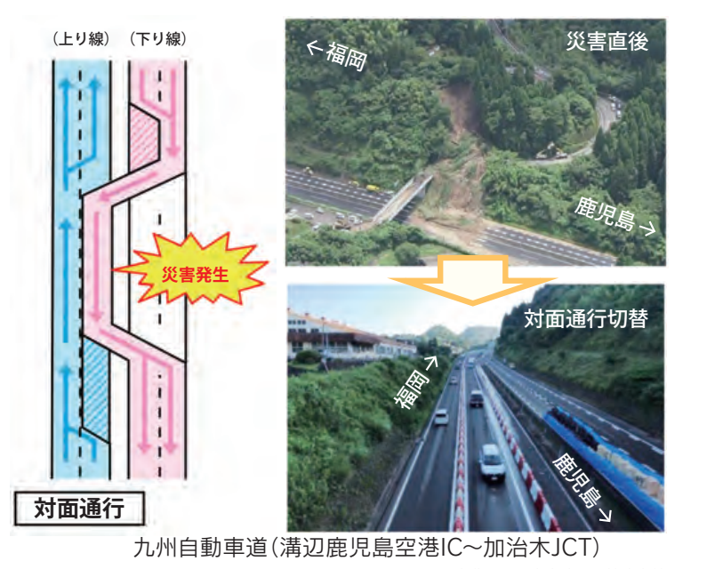
高潮浸水防護効果（大分港海岸）イメージ図


+5.27m
整備前
+9.10m
約4.0m
+5.27m
整備後

○災害時の人流・物流の確保

災害に強い国土幹線道路ネットワークを構築するため、高規格道路のミッシングリンクの解消及び暫定2車線区間の4車線化、高規格道路と代替機能を発揮する直轄国道とのダブルネットワークの強化等を推進します。

【暫定2車線区間の4車線化】
被害のない2車線を活用し交通機能を確保。


（上り線）（下り線）
災害発生
対面通行
災害直後
福岡
鹿児島
対面通行切替
九州自動車道（溝辺鹿児島空港IC～加治木JCT）
出典：西日本高速道路株式会社

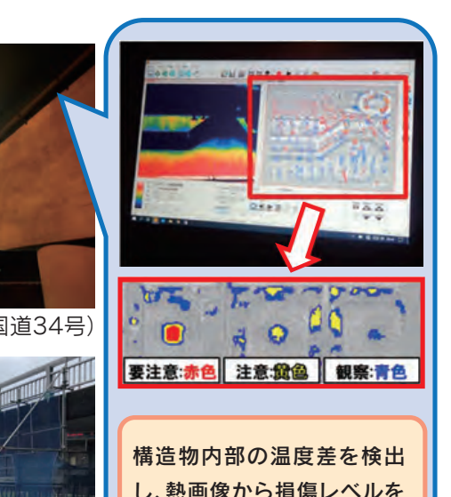
○インフラの老朽化対策

近年の激甚化・頻発化する災害や急速に進む施設の老朽化に対応するべく、防災・減災対策や老朽化対策の取り組みを推進します。

また、地方公共団体管理の橋梁（天大橋：薩摩川内市）等について、直轄診断・修繕代行による技術的支援を行っています。

橋梁点検（新妙相寺2号橋：国道34号）

橋梁修繕代行（天大橋：薩摩川内市市道）


要注意：赤色
注意：黄色
観察：青色
構造物内部の温度差を検出し、熱画像から損傷レベルを3段階で判定することにより「うき」を抽出するシステム

○無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観形成、観光振興の観点から、令和3年5月に策定した無電柱化推進計画に基づき、無電柱化を推進します。

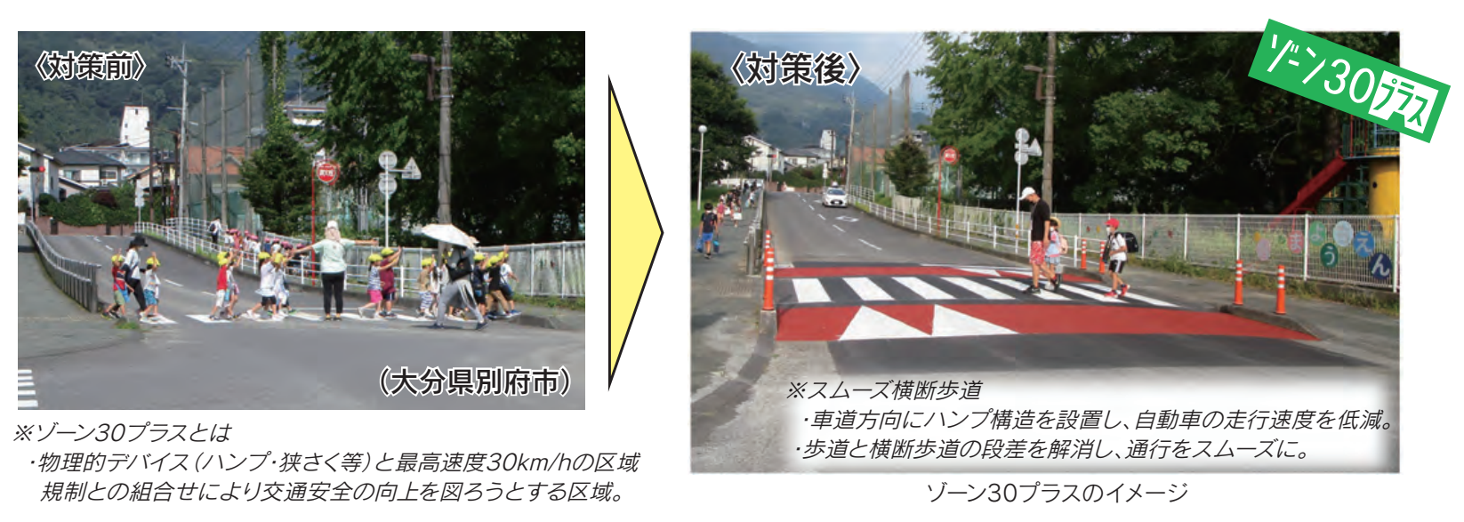
【整備前】　【整備後】
国道57号 長崎県雲仙市小浜町 雲仙地区(1)（令和2年度事業完了）

●「無電柱化推進計画」の基本的な方針
- 新設電柱を増やさない（特に緊急輸送道路の電柱を減少）
- 徹底したコスト縮減（平均して約2割のコスト縮減）
- 事業のスピードアップ（事業期間半減（約7年→4年）を目標

●計画目標
令和3年度から5年間で約4,000km（※）の新たな無電柱化に着手（※）全国目標

○交通の安全安心の確保

生活道路などにおいて、全ての人が安全・安心で快適に通行できる空間を目指し、歩道整備などを進めます。


〈対策前〉
（大分県別府市）
〈対策後〉
ゾーン30プラス
※スムーズ横断歩道
・車道方向にハンプ構造を設置し、自動車の走行速度を低減。
・歩道と横断歩道の段差を解消し、通行をスムーズに。
※ゾーン30プラスとは
・物理的デバイス（ハンプ・狭さく等）と最高速度30km/hの区域規制との組合せにより交通安全の向上を図ろうとする区域。

ゾーン30プラスのイメージ

■防災・減災、国土強靭化による事業の整備効果

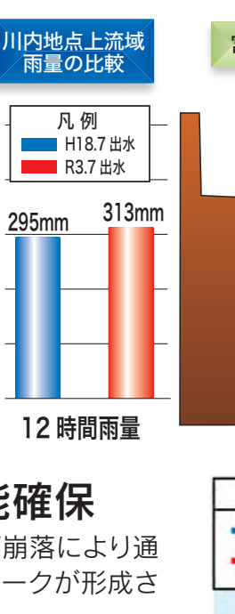
○河川事業による整備効果（川内川水系川内川）

川内川では、平成18年7月出水により浸水戸数約2,400戸など甚大な被害が発生したため、激特事業等の川内川改修及び鶴田ダム再開発事業により河川・ダム一体となった治水対策を実施しました。

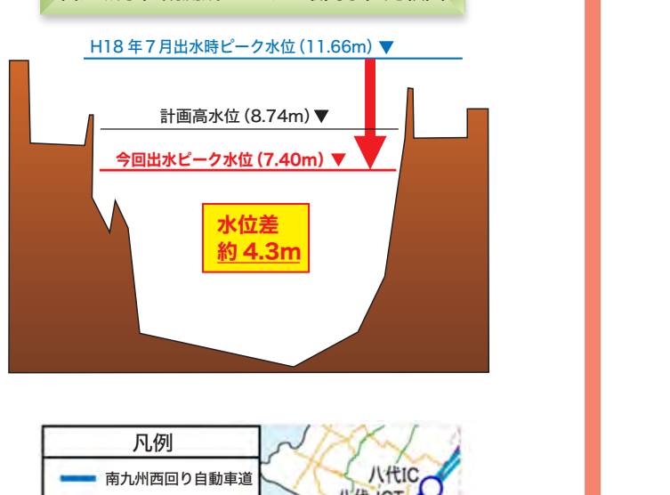
令和3年7月出水は、平成18年7月出水に匹敵する降雨でしたが、宮之城水位観測所地点の水位は、平成18年7月洪水時の最高水位と比べて約4.3m低く、治水対策の効果発現により被害を軽減しました。

虎居地区（H18浸水範囲）⇒R3.7出水では外水氾濫無し
川内川
分水路
(H23完成)
推込分水路

川内地点上流域雨量の比較



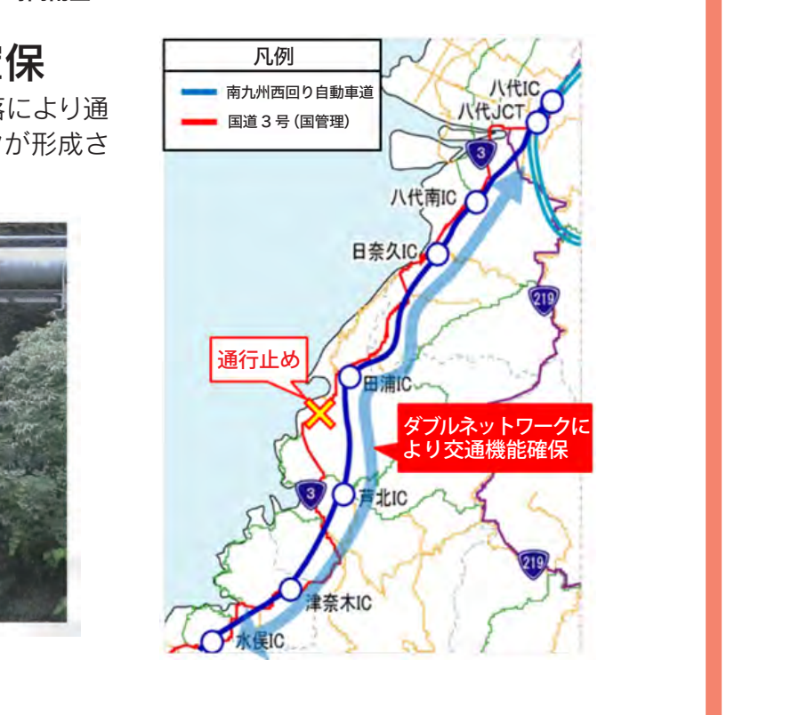
宮之城水位観測所における最高水位比較図


H18年7月出水時ピーク水位（11.66m）
計画高水位（8.74m）
今回出水ピーク水位（7.40m）
水位差 約4.3m

○ダブルネットワークによる交通機能確保

八代～水俣間では、令和2年7月豪雨時に国道3号が斜面崩落により通行止めとなったが、南九州西回り自動車道とダブルネットワークが形成されていたことから、交通機能が確保されました。

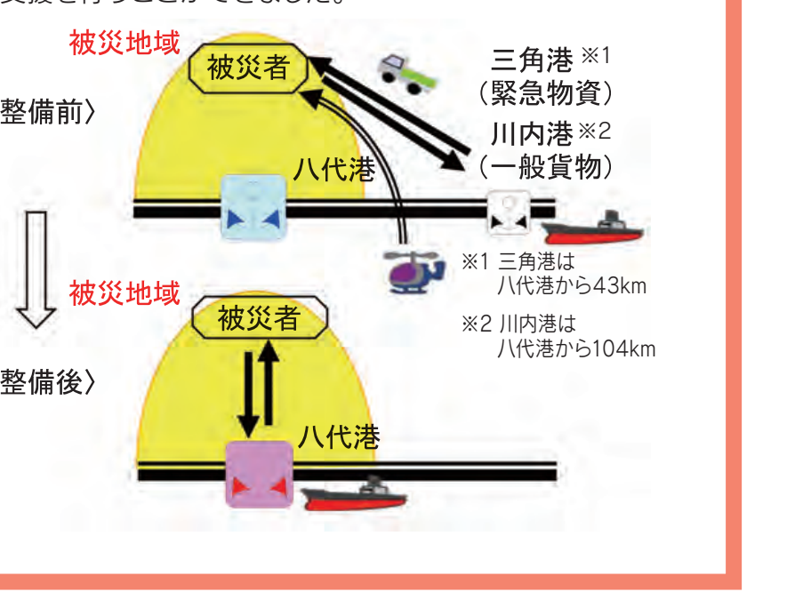
被災状況（国道3号 佐敷トンネル終点側）


凡例
南九州西回り自動車道
国道3号（国管理）
八代市
八代JCT
八代南IC
日奈久IC
通行止め
田浦IC
ダブルネットワークにより交通機能確保
芦北IC
津奈木IC
水俣IC

○港湾事業による整備効果（八代港）

平成28年熊本地震の教訓を活かし、八代港では緊急物資対応の耐震強化岸壁が令和元年度に完成しました。これにより、令和2年7月豪雨時には支援船が八代港に着岸し被災地支援を行うことができました。

耐震強化岸壁（緊急物資対応）完成（八代港）


被災地域
被災者
〈整備前〉
八代港
三角港※1（緊急物資）
川内港※2（一般貨物）
〈整備後〉
※1 三角港は八代港から43km
※2 川内港は八代港から104km

豊かで活力ある地域づくり

■魅力ある地域づくり

○「かわ」を核とした魅力ある水辺空間の創出

古くから培われてきた地域の歴史や文化、人々の生活との繋がりなど、水辺にはその地域特有の資源が眠っています。その地域資源をかわまちづくり等によって地域の「顔」と「誇り」となる水辺空間の形成を目指します。

～民間企業による水辺を活用したイベントの開催～

五ヶ瀬川かわまちづくり（宮崎県延岡市）

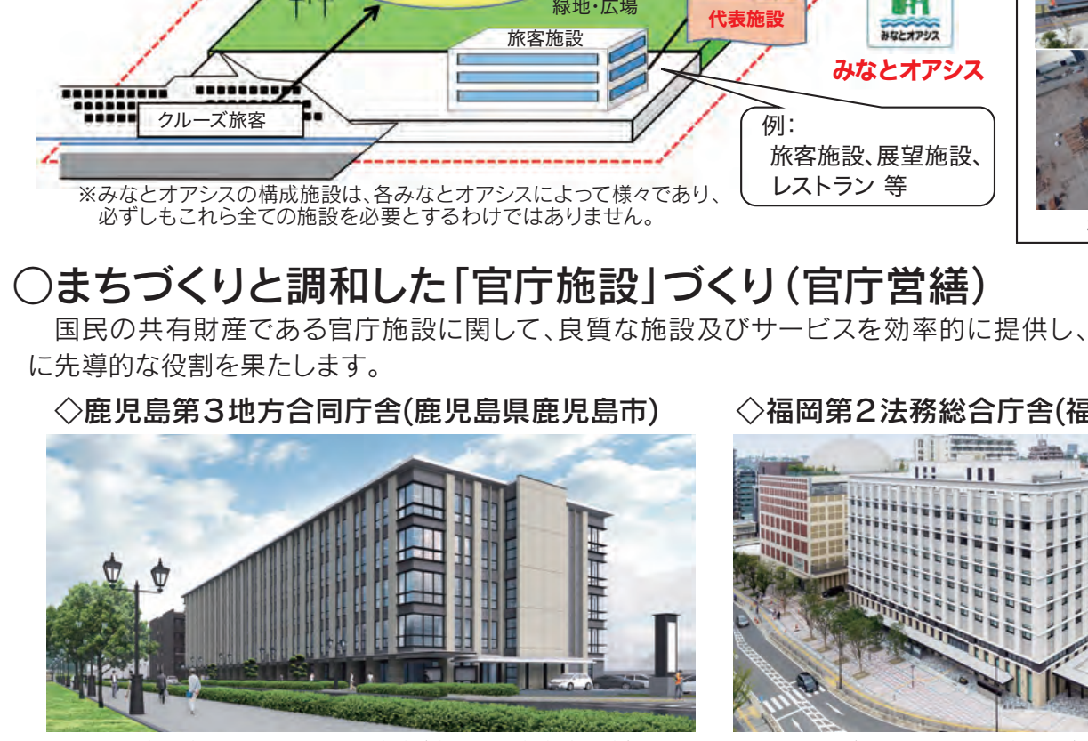
かわまち交流館
交流広場
鮎やな

白川夜市（熊本県熊本市）

○「みなと」を核とした住民参加による地域振興の取組

「みなと」を核としたまちづくりを促進しており、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設を「みなとオアシス」として全国152箇所（九州管内22箇所）登録（令和4年1月末時点）しています。

令和3年度は、「みなとオアシス八代」が新たに登録されました。


例：多目的ホール、観光案内施設、市場、支援物資備蓄施設 等
地域住民
観光客
交流施設
トイレ
駐車場
地域住民の交流 観光振興
緑地・広場
旅客施設
代表施設
クルーズ旅客
みなとオアシス
例：旅客施設、展望施設、レストラン 等
※みなとオアシスの構成施設は、各みなとオアシスによって様々であり、必ずしもこれら全ての施設を必要とするわけではありません。

みなとオアシス八代（熊本県八代市）

代表施設：旅客ターミナル

構成施設：くまモンポート八代

○まちづくりと調和した「官庁施設」づくり（官庁営繕）

国民の共有財産である官庁施設に関して、良質な施設及びサービスを効率的に提供し、公共建築分野において常に先導的な役割を果たします。

◇鹿児島第3地方合同庁舎（鹿児島県鹿児島市）

「歴史と文化の道」に面する庁舎（令和5年度完成予定）

◇福岡第2法務総合庁舎（福岡県福岡市）

まちづくりと調和した施設づくり（令和元年7月完成）

○「国営公園」を核とした魅力ある地域づくり

豊かな自然環境や優れた文化的資産を生かして、多様なニーズに応える広域レクリエーション拠点や歴史・文化の体験・発信の拠点となる国営公園の整備・管理を進め、地域連携の取組を通じて、地域活性化に寄与します。

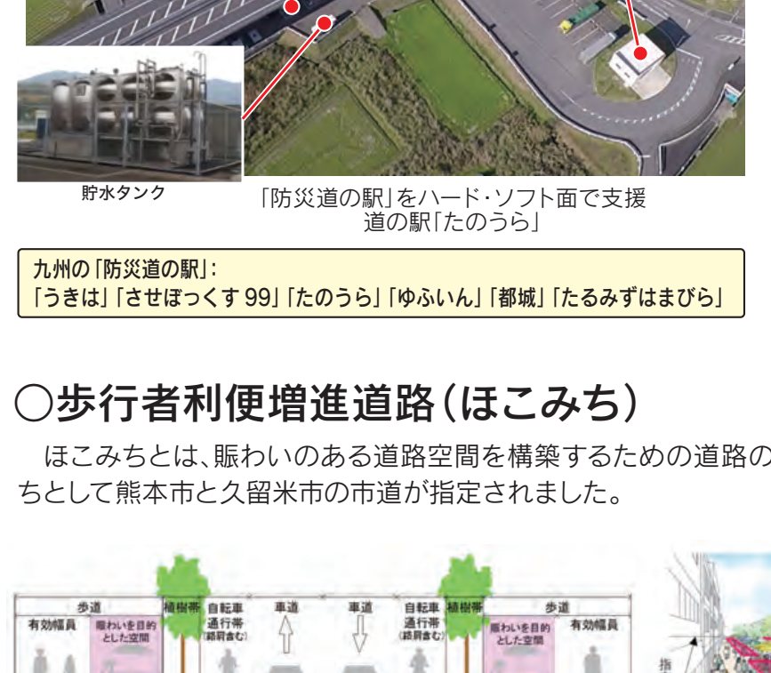
海の中道海浜公園

国営吉野ヶ里歴史公園

○「道の駅」の第３ステージの推進

「道の駅」は、九州で138箇所登録されています（令和4年4月時点）。「道の駅」の第3ステージとして、防災拠点化（「防災道の駅」等）やニューノーマルへの対応、地域センター化に向けた取組を推進しております。

防災拠点化


非常用電源
防災倉庫
貯水タンク
「防災道の駅」をハード・ソフト面で支援
道の駅「たのうら」

九州の「防災道の駅」：
「うきは」「させぼっくす99」「たのうら」「ゆふいん」「都城」「たるみずはまびら」

ニューノーマルへの対応

キャッシュレス決済の導入促進
道の駅「しんよしとみ」

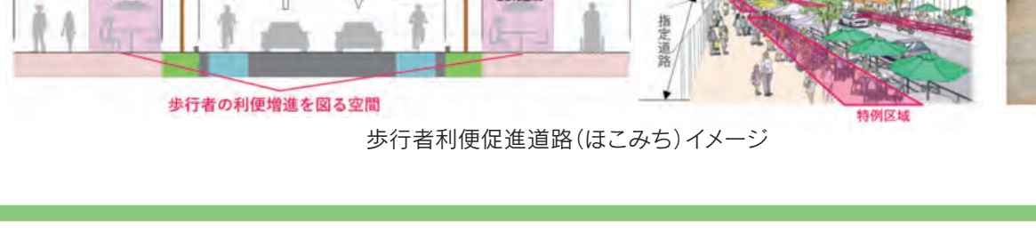
○ニューノーマルの事例
- キャッシュレス決済
- 通販・EC対応等の取組の促進
- トイレの洋式化
- デジタルサイネージによる情報提供

地域センター化

地域の賑わいを創出する道の駅の整備
道の駅「くしま」

○歩行者利便増進道路（ほこみち）

ほこみちとは、賑わいのある道路空間を構築するための道路の指定制度のことで、令和3年12月に九州初のほこみちとして熊本市と久留米市の市道が指定されました。


歩道
自転車通行帯
車道
歩行者の利便増進を図る空間
特例区域
歩行者利便促進道路（ほこみち）イメージ

市道 新市街下通2丁目第1号線（熊本市）

災害からの復旧・復興

■平成２９年７月豪雨からの復旧・復興

○九州北部緊急治水対策プロジェクト

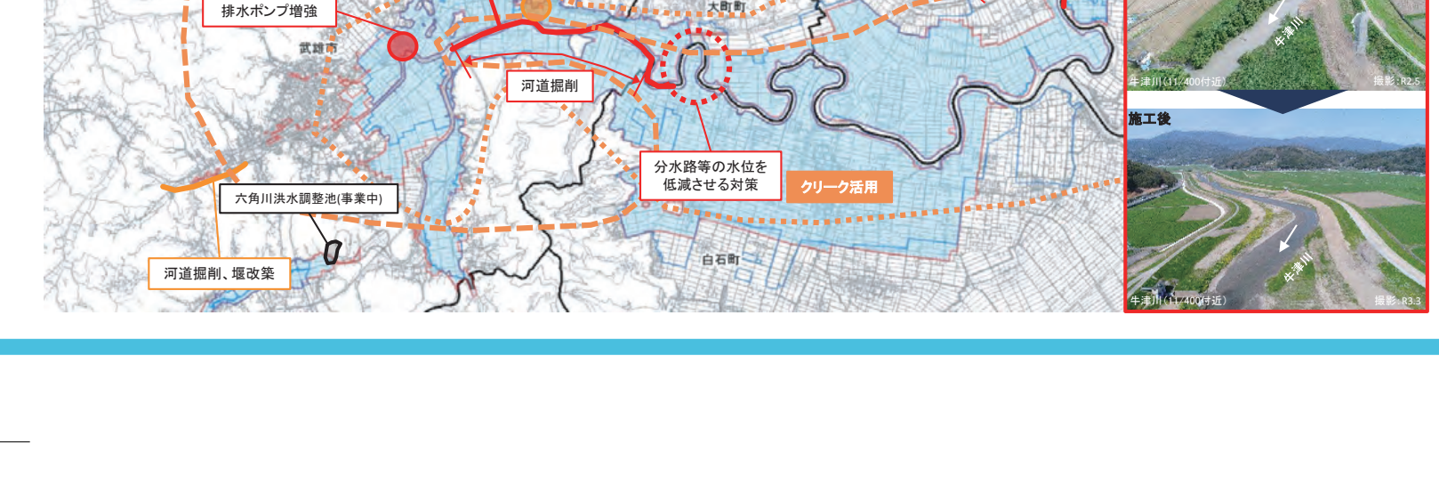
平成29年7月九州北部豪雨で甚大な被害を受けた河川において、災害の再発防止・軽減を目的に、河川・砂防事業が連携し、概ね5年間で緊急的・集中的に治水機能を強化します。　○事業内容：堤防整備、河道掘削、護岸整備、砂防堰堤

位置図
福岡県
佐賀県
大分県
熊本県
赤谷15渓流
令和3年10月撮影
赤谷16渓流
令和2年10月完成
赤谷川
河川の改良復旧及び砂防堰堤の整備状況（赤谷川）

■令和元年８月豪雨等からの復旧・復興

○六角川水系緊急治水対策プロジェクト

令和元年8月及び令和3年8月の豪雨で甚大な被害が発生した六角川水系において、国、県、市町等が連携して治水対策に取り組みます。　○事業内容：築堤、河道掘削、遊水地整備、排水ポンプ増強


位置図
施工前
施工後
六角川
令和3年浸水区域
令和元年浸水区域
行政界
河道掘削、堰改築
遊水地
河道掘削
排水機場新設
ため池活用
堰・排水機場等の遠隔操作化　樋管等の無動力化
築堤（引堤）
排水ポンプ増強
武雄市
大町町
江北町
白石町
分水路等の水位を低減させる対策
クリーク活用
六角川洪水調整池（事業中）
河道掘削、堰改築
野水池 A=90ha

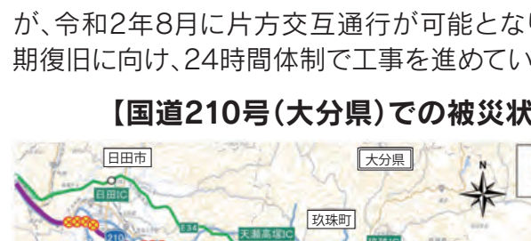
■令和２年７月豪雨からの復旧・復興

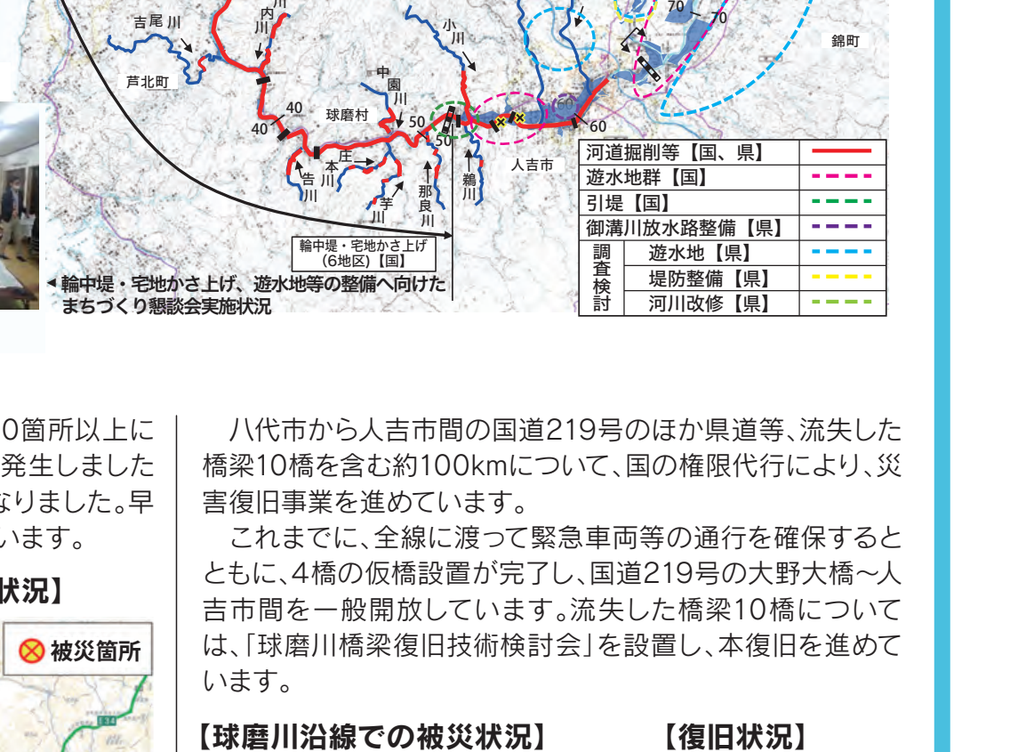
○河川事業の取組み（球磨川水系緊急治水対策プロジェクト）

梅雨前線が停滞し、7月3日から8日にかけて、線状降水帯が九州で多数発生しました。球磨川では、大雨により氾濫が発生し、人吉市、球磨村、八代市坂本では記録的な浸水深となり多数の浸水被害が発生しました。

国、県、市町村等が連携し、球磨川の被災した箇所で、河道掘削、堤防整備、輪中堤・宅地かさ上げ、遊水地等の整備をまちづくりと連携して推進します。

坂本町生名子地区
【施工前】R3.8
【施工中】R3.11




凡例
浸水範囲
堤防決壊箇所
大臣管理区間
道路橋（落橋）
鉄道橋（落橋）
八代市
市房ダム再開発
水上村
まちづくりと連携した高台への居住誘導【市町村】
砂防・治山事業【国、県】
水田、ため池等の活用【市町村】
流水型ダム
人吉市
河道掘削等【国、県】
遊水地群【国】
引堤【国】
御溝川放水路整備【県】
調査検討　遊水地【県】　堤防整備【県】　河川改修【県】
輪中堤・宅地かさ上げ（6地区）【国】
◀輪中堤・宅地かさ上げ、遊水地等の整備へ向けたまちづくり懇談会実施状況

○道路事業の取組み

国道210号では豪雨による被災箇所は50箇所以上に及びました。特に赤岩地区では道路崩壊が発生しましたが、令和2年8月に片方交互通行が可能となりました。早期復旧に向け、24時間体制で工事を進めています。

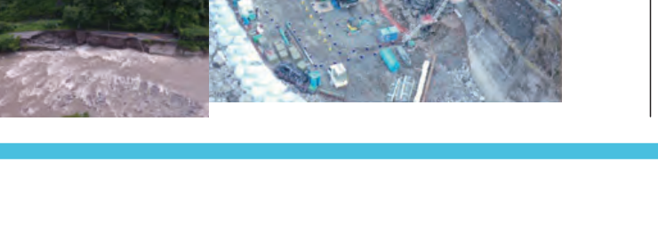
八代市から人吉市間の国道219号のほか県道等、流失した橋梁10橋を含む約100kmについて、国の権限代行により、災害復旧事業を進めています。

これまでに、全線に渡って緊急車両等の通行を確保するとともに、4橋の仮橋設置が完了し、国道219号の大野大橋～人吉市間を一般開放しています。流失した橋梁10橋については、「球磨川橋梁復旧技術検討会」を設置し、本復旧を進めています。

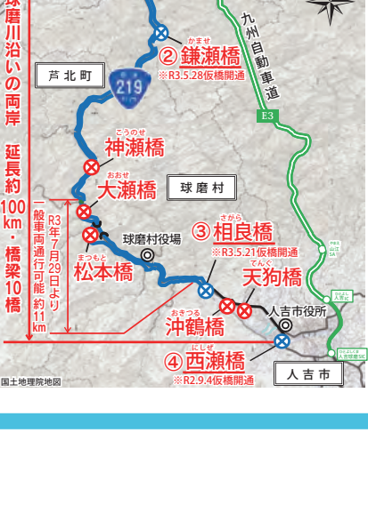
【国道210号（大分県）での被災状況】

被災箇所
日田市
大分県
玖珠町
九重町
由布市
赤岩地区

【赤岩地区の道路崩壊（日田市天瀬町）】


復旧状況（R4.1月）
被災直後（R2.7月）

【球磨川沿線での被災状況】


八代市
熊本県
権限代行区間（国道219号、球磨川沿い両岸）延長約100km・橋梁10橋
①坂本橋
②鎌瀬橋
③相良橋
④西瀬橋
深水橋
神瀬橋
大瀬橋
松本橋
天狗橋
沖鶴橋
人吉市

【復旧状況】

①坂本橋
②鎌瀬橋
③相良橋
④西瀬橋